動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2936番
（公）043（222）7207番

95.7.28 No. 4231

津田沼支部 配転差別

―地労委第10回審問―

崩れさるJRの論理

七月二四日一〇時より、千葉地方労働委員会において、当局側・伊藤証人に対する、組合側弁護士による反対尋問が行なわれた。

まず、運転士と車掌の関係について、前回審問では「連係が必要だから運輸区を新設して車掌から運転士に昇進というルートをつくった」と述べたが、今回の答弁では「具体的な作業は事故が起きた時ぐらいで、日常の連係は必要ない」とした。これではわざわざ運輸区を新設する必要がどこにあるのか。また「運転士にも営業感覚を持ってもらい、運転だけやっていればいいという事ではだめ」というが、折返し時間を短くしてそんな余裕さえ与えないダイヤを作っていること事態に問題があると言わざるを得ない。

また最近事故が多発している事、特に成りたての運転士・車掌が多い事に触れると「自動車と一緒で、経験を詰めば事故も起きない」と述べたが、それではJRに成ってからの運転士の養成の仕方に問題があると言わざるをえない。更に、91.3 92.10、93.4の業務移管によって駅、売店に移動になった動労千葉の乗務員ついては「確認していない、記憶にない」と逃げる一方の回答しかできず審問は終了した。

8・6～8・9広島・長崎 反戦大行動へ起とう！

戦後五〇年攻撃との攻防の焦点 核武装化・朝鮮侵略戦争阻止！ 反戦・反核闘争の大高揚へ向け

今年のヒロシマ・ナガサキ反戦闘争は、被爆五〇年の歴史を画する、「戦後五〇年」攻撃との対決という攻防の重大な一環として闘われる。

戦後最大の大衆運動といわれてきた既成原水禁運動は、傘下の労働者・被爆者大衆の広範な批判の声を無視し、連合主催の「平和集会」を核禁会議と共催することで合意するなど、今や解体寸前ともいえる状況に瀕している。

われわれは、日本の朝鮮侵略戦争参戦国化・核武装化を阻止する新たな反戦・反核運動の構築に向けて、全国労組交流センターを基軸に結成された、「八・六広島―八・九長崎反戦・反核闘争全国統一実行委員会」が主催する反戦大行動に、青年部を中心に代表を派遣し、共に新たな潮流の形成へと奮闘しなければならない。

今夏八・六―八・九闘争の課題は、何よりも小沢路線による核武装化を阻止し、アジア再侵略の突破口をこじあける朝鮮侵略戦争策動を断じて許さないことです。

そして日本の戦争責任を徹底的に追及し、「戦後五〇年」攻撃を完膚なきまでに粉砕することです。

強権的な被爆者英霊化や、戦争責任追及の声を圧殺しようとする攻撃を断固はねかえし、被爆者を先頭に、労働者を基軸に、アジア人民との連帯にかけて、八・六―八・九広島・長崎反戦大行動に起ちあがろう！

この反戦・反核闘争の大高揚を成し遂げ、戦後五〇年を問う八・一五集会へと決起しよう！

戦後五〇年を問う八・一五労働者・市民の集い

日時 九五年八月一五日（火）一四時～

場所 東京・杉並公会堂（JR荻窪駅徒歩五分）

内容 【第一部】歌、演奏、コント、詩の朗読等
【第二部】講演、パネルディスカッション

指定列車 千葉駅四番線一二時二五分発快速列車

最大限！総結集！総決起！

新たな10万人合理化粉砕！ 労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう！